



Kainan East Rotary

DISTRICT 266

CLUB WEEKLY BULLETIN

事務所 海南省日方1294 海南商工会議所内 TEL (07348) 3-0800

例会日 毎週月曜日 12時30分 ♣ 1例会のみ 18時30分 於海南商工会議所 4F

会長 片山博之 幹事 中村隆俊 会報委員 朝井・西川・名手・神谷

第326回 例会 昭和57年3月8日(月) 午後12時30分 於 海南商工会議所

1. 開 会 司 会 片山博之会長
2. ロータリーソング 「奉仕の理想」
3. ゲスト紹介 中田房雄様
4. ビジター紹介 青木泰秀様 (田辺東R.C.)
5. 出席率の報告 83.33% 会員総数 48名 出席者数 40名
前回修正出席率 95.83%

6. 会長スピーチ

ゲストの中田さん、本日はお忙しいところ ありがとうございます御座居ます。
 ビジターの田辺東R.C.の青木さんようこそいらっしゃいました。
 先日何かで読んだのですが、喜びを分かちあえば倍になり、悲しみを分かちあえば半分になる、人生の色々な節目の多い三月に、なんとなくふさわしい言葉だなあと思いました。気候の上でも寒波と暖波が入り乱れ唐詩の「花開いて風雨多し」の時期でもあります。身体には充分気をつけて頂きたく思います。
 今日「世界の食料事情について」と題して中田さんからお話をお伺いします。中田さんは、中村幹事との同窓生であり、食料の流通関係の仕事をしておられます。

我々はともすると、ありあまっているかと錯覚を起しがちな食料問題を真剣に考えなければならない時だと思えます。中田さん、後程よろしく御願ひ致します。

7. 幹事報告

※ 例会場 例会日臨時変更のお知らせ

和歌山北R.C. 3月15日(月)～4月26日(月)まで

3月15日(月) — 3月16日(火) 県経済センター9F大集会室

3月22日(月) — 休会(春分の日)

3月29日(月) — 県経済センター9F大集会室

4月5日(月) — ”

4月12日(月) — ”

4月19日(月) — 4月20日(火) 県経済センター9F大集会室

8. 委員会報告

◎ 倉橋利幸青少年活動委員長

3月3日和歌山商工会議所で、ライラ委員会に出席する。

国際ロータリー才266地区才18回初級ライラ参加の件

日時 昭和57年3月20日～3月22日

場所 和歌山県西牟婁郡串本町潮岬668-1

和歌山県立 潮岬青年の家

9. ゲスト卓話 中田房雄様

最近テレビ又は新聞で世界の食料問題、又は日本食料問題について、よく話題にされるが、現在の所日本ではそれほどではないが、世界の食料事情を見れば日本ですえも、のんびりしてられない状態である。

まず最初に世界の食料事情について取り上げれば、昭和47年に世界各地で異常気象が起り、インド・ソ連・中国などで凶作になり、ソ連かアメリカに大量の大豆・小麦などの買込みが見られましたが、昨年にはソ連の大量の穀物の買込みにより、アメリカの穀物市場が大パニックが起き、急拠アメリカが大豆穀物輸出規制を行う。これは別名大豆パニックとも云われている。47年・48年世界の異常気象により地球上に遠からず氷河期がやって来るのではないか。おのずから食料問題が起るのではないか。47年大豆パニックをきっかけに食料問題が重要視されてきた。80年になってアメリカが、ソ連の中近東問題に対して、対ソ穀物禁輸措置を行ない、穀物が戦略物資として取り上げられ、世界の緊張を持つことになる。

では日本の食料問題はどうかと云うと、農林省から毎年発表される。統計表によると54年度食料農産物総合自給卒が、72%となるが、この%では、なんら心配する事がないと見られますが、主食穀物自給率69%穀物自給率33%と数字をあげている。69%から33%になぜ数字が、さがるのかと云うと飼料自給率28%が原因で、この様な数字になる。又、それと共に日本人の食生活の変化、人口増加に伴う食料消費増加が直接的な原因で、間接的な理由として、核家族化に伴ない食生活内容の変化が起きる、米の消費の減少と小麦の消費の増大が、食料自給率の変化につながるのである。

ニコニコ・米山・BOX

青木泰秀様 (田辺東R.C.)

中村隆俊君 (名古屋で、9万円損をする所助かる)

松田易己君 (経済新聞に東京デザイン開発会社による開発商品を3月10日より新発売)

西岡 豊君 (昨年10月集金時に紛失した金額の一部が返って来ました)

角谷勝司君 (和雑貨組合から蒲郡の地場産業の見学に行く)

次回例会案内 昭和57年3月15日(月)午後12時30分～ 於 海南商工会議所
会員卓話 広 進之君

次々回例会案内 昭和57年3月29日(月)午後12時30分～ 於 海南商工会議所
ゲスト卓話 森皮膚科医長